

GIGAスクール構想に対応 『デジタル版美術資料』で何が変わる?

『美術資料』に、みなさんの「もっと!」に応えるデジタル版ができました。
美術の授業がどう変わるのか、『デジタル版美術資料』だからこそできることや本の『美術資料』との違いなどについて、監修者の横田学先生から解説していただきます。



よこた まなぶ
横田 学 先生 プロフィール

これまでに、京都市立芸術大学教員(2002～2020年)、京都府立学校教諭、京都府教育庁指導部学校教育課指導主事、高等学校学習指導要領解説作成協力者(文部科学省)、評価規準研究開発協力者(国立教育政策研究所)、中央教育審議会教育課程部会芸術ワーキンググループ委員などに携わる。現・京都市立芸術大学名誉教授。

Q.1 本の『美術資料』とデジタル版では、画像や説明文の内容は同じですか?

A デジタル版は、本の『美術資料』をもとにして作成していますので、本とデジタル版を入れ替えても違和感なく使用できます。さらにデジタルならではの強みを生かし、豊富な画像や動画など多くの学習内容やデジタル版特有の学習機能を加えた、強化版の『美術資料』となっています。


(追加画像約 100 点、動画約 200 本)








※著作権の関係から本のみに掲載した図版もいくつかあります。



Q.2 “追加の学習情報”の具体例と、どのような学習の場面で活用できるのか教えてください。

A 追加の学習情報には画像、動画などの追加資料、発展・深い学び、大きさ比べ、ワークシート、360°ビューなどがあります。使用が想定される場面や学習効果などは以下の表のとおりです。

各タイトルの Top ページにある  をタッチすると、追加の学習情報のアイコンが表示されます。



アイコン	機能・説明	使用が想定される場面や学習効果
	【動画再生】 主に表現編の制作手順等を動画で見ることができる	◎導入時に教員が一齐指導で電子黒板などに示して説明資料として使用 ◇生徒が手元のタブレット PC などで動画を細部まで確認 ◇制作途中などに、生徒が必要に応じて主体的に制作方法を確認
	【デジタル版限定の追加資料】 関連する画像を見ることができる(拡大して細部も確かめられる高解像度のデータなどを収録)	◎まとめの授業等でさらに深める内容の説明資料として使用 ◇意見交換や共同鑑賞など、グループワークでの学習を深める資料 ◇自由研究や発展的な学習、休業中の課題などの資料として生徒が活用
	【発展・深いまなび】 補助線を出したり、題材ごとに理解を深めたりする固有のしなを配置	◎導入やまとめでの一齐指導で教員が電子黒板などに示して説明資料として使用 ◇学習の復習や査前の確認に活用 ◇自由研究や発展的な学習、休業中の課題などの資料として生徒が活用
	【作品の大きさ比べ】 作品の横に身の回りにあるものの画像(シルエット)を表示	◇生徒がキャプションのサイズ表示ではつかみにくい作品の大きさを、身近なものとの比較で実感できるように提示し理解を深める (500円硬貨:約2.7cm、ペットボトル500cc:約21cm、自動販売機:約183cm)
	【ワークシート (PDF/Word)】 ワークシートを閲覧したり印刷したりすることができる	◎授業のまとめや自宅課題など、印刷して配布 ◇生徒が学習の復習や査前の確認に活用 ◇自由研究や発展的な学習、休業中の課題などの資料として生徒が活用
	【360°ビュー】 建築作品の内部や立体作品を見たい角度から自由に見ることができる	◎導入時に教員が一齐指導で電子黒板などに示して説明資料として使用し興味関心を持たせる ◇自由研究や発展的な学習、休業中の課題などの資料として生徒が活用
	【外部ページリンク】 参考になる外部の Web ページに接続する	◇自由研究や発展的な学習、休業中の課題などの資料として生徒が活用

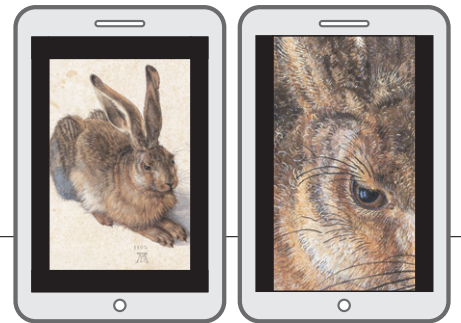
Q.3 本の『美術資料』だけでもたくさんの図版などがありますが、さらに多くなる情報を生徒は使いこなせるでしょうか？

A デジタル機器活用のメリットのひとつが、たくさんの情報から必要なものを瞬時に検索したり、使用に応じて管理したりする機能です。『デジタル版美術資料』でもページに含まれる言葉から検索できるだけでなく、目次や画面の縮小画像から必要ページに移動することができます。生徒の興味が湧き出るその瞬間を逃すことなく、容易に操作できます。





Q.4 『デジタル版美術資料』ならではの機能には、どのようなものがありますか？

A リンクや画面の拡大、さらに画面下のメニューから選択して実行する機能に、ふせん、ペン、テキストコピーなどがあります。それぞれの想定する学習の場面や機能は以下のとおりです。

アイコン	機能・説明	使用が想定される場面や学習効果
	【リンク】 タッチ(クリック)して関係するページへ移動する	◎本の『美術資料』でもリンク情報は掲載していますが、そこに書かれたページを探さなければなりません。デジタル版では、タッチするだけで素早く移動でき、スムーズな授業進行が可能 ◇自由研究や発展的な学習など生徒が主体的に興味関心を広げる
	【画像の拡大】 タブレット PC 等の機能として、画面上の操作による画面の拡大があります。 画像をタッチして確認してみよう 特に上の表示がある画像は、高解像度の画像を表示し作品の細部まで見て鑑賞が可能	◎教員が一斉指導で電子黒板などに示して説明資料として使用 ◇生徒が手元のタブレット PC などで細部まで鑑賞 ◇必要な部分を拡大するなど、意見交換や共同鑑賞など、グループワークでの学習を深める



○画面下のメニュー

アイコン	機能・説明	使用が想定される場面や学習効果
	【「ふせん」の貼り付け】 ページ内に「ふせん」メモを貼り付けることができる 色は3色から選択	◎導入時に教員が授業に必要なページを指示し、「ふせん」を貼らせ、授業の進行に応じて「ふせん」を貼ったページを開かせ指導する ◇生徒が授業中に自主的に参照する手掛かりにする ◇授業中に気付いたことを「ふせん」に書き込み、貼り付ける
	【「ふせん」一覧】 貼り付けた「ふせん」のあるページの一覧を表示	◇「ふせん」に書き込んだことを集めて、学習のまとめの資料にしたり、グループワークの材料にしたりする ◇題材が終わっても残すものなど、色分け機能を使い「ふせん」を整理
	【ペン書き込み】 ページ内にペンで線や図形などを書き込むことができる 線の色や太さなども選択できる	◎導入時などに教員がポイントになる部分を指示し、アンダーラインなどの目印を付けるよう指示する ◇生徒が自主的にポイントを確認する手掛かりにする ◇授業中に特に重要だと思うところなどに目印を付けさせる ◇目印を付けた場所を学習のまとめの資料にしたり、グループワークの材料にしたりする
	【テキストコピー】 ページ内にある文字情報をコピーすることができる	◇まとめレポートなどにページ内の文字情報をコピーして活用する ※活用にあたっては、参照元の明記など著作権に関する指導も望まれる

NEXT 次号「まなび！net」では、『デジタル版美術資料』を活用した授業の具体例を紹介する予定です。



『デジタル版美術資料』
特設ページへはこちらから

秀学社の美術学習サポート

授業だけでなく家庭学習などにもご活用ください。

●『美術資料』の詳細や、ワークシートなど各種ダウンロード資料を提供しています。

秀学社Webサイト
<https://www.shugakusha.co.jp/>



まなび！net へのご意見や
著者へのメッセージ、ご質問など、
「お問い合わせフォーム」よりお気軽にお寄せください。
お問い合わせフォーム **ココから！**
https://www.shugakusha.co.jp/form_otoiawase/

先生の声をお聞かせください。

